研　究　基　調

目　　次

Ⅰ　研究主題……1

Ⅱ　研究主題設定の理由
　1　「一人一人の子供」そして「将来の生活」という視点を強調する教育課程の編成……1
　2　「将来の生活」から「将来の豊かな生活」へ……2

Ⅲ　基本的な考え方……3

Ⅳ　研究目的……4

Ⅴ　研究仮説……4

Ⅵ　研究内容……4

Ⅶ　研究方法
　1　研究計画……6
　2　学部研究の進め方……7

Ⅷ　研究の実際
　1　教育的ニーズの把握と分析……8
　2　生活重視の指導内容の選択・組織……10
　3　授業分析による指導方法改善……12
　4　個別の指導計画作成……13
　5　各学部の実践研究……16

Ⅸ　研究のまとめ……17

Ⅰ　研究主題

一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいか
― 個々の教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備 ―

Ⅱ　研究主題設定の理由

1　「一人一人の子供」そして「将来の生活」という視点を強調する教育課程の編成

本校ではこれまでに，「生き生きと動く子供を育てる教育課程の編成」及び「かかわり合いの豊かな子供を育てる教育課程の編成」にそれぞれ取り組んできた。これらの教育課程編成では，「動き」や「自我」を編成の柱に置き，その発達的な視点を重視することにより，発達段階や発達課題に応じた，小・中・高の指導の積み上げで大きな成果を上げている。しかし一方で，その指導計画に基づく実践において，以下のような課題があったのも事実である。

・　系統的，発展的に配列された指導内容は量的に多くなりがちで，その子供のニーズ（その子供が求めているもの，その子供に本当に必要なもの）に対応する学習内容の見極めが難しく焦点化しにくい。その結果**集団指導が中心になり，個がその中で埋没している状況がある。**

・　ほぼ月単位で変わっていく学習内容は，変化に富み新奇性を持たせられる点での良さはあるが，反面，確実な習得や定着に至りにくい。そのため，**学習した成果が実生活の中で応用されたり，生活力として発揮されたりしにくい。**

今次研究においてわたしたちは，学習指導要領が改訂され，その改訂の趣旨を十分踏まえ，創意工夫を加えた教育課程を編成する必要があるということも一つの大きなきっかけにして，これらの課題を解決するために新しい視点に立つ教育課程の再編に取り組まなければならないと考えた。そして，その教育課程再編のよりどころとして，わたしたちがぜひその成果を生かしたいと考えたのが，平成８年度から９年度に掛けて取り組んだ「一人一人の子供の将来の生活につながるコミュニケーション指導の取り組み」の研究である。この研究では，一人一人の子供に強く視点を当て，個々の将来の生活像を想定して長期的展望に立った指導を進めていくことの大切さが強調され，コミュニケーション指導を通してその方策を探っていった。具体的には，学校と家庭が連携し合って，その子供の将来の期待する生活像実現のために大切な事柄，必要な事柄に関して，その子の発達段階や生活年齢，家庭・社会生活の様子などに応じた段階的な目標を設定し実践，評価がなされている。

この前次研究での**「一人一人の子供」**そして**「将来の生活」**を重視し，子供一人一人のニーズを現実の**「生活」という側面から導き出し，強く個に対応する，そして現在の取り組みを確実に将来につながるものにする**という考えは，これまでの発達的な視点を大切にした教育課程，特に指導計画において見られた課題を解決する上で大きな示唆を与えている。この示唆を教育課程編成という大きな取り組みに発展させていく必要があると考えた。すなわち，これからの教育課程編成は，

・　全体の教育計画として組織し，それを一人一人の子供に下ろしていくというこれまでの方向性から，**一人一人の子供のニーズから出発してそれを集団的に計画化していくという方向性への転換**をより強調すべきではないか。

・　その**一人一人の子供のニーズは**，現在の実態や状態像に基づきつつも，**将来の特に卒業後の生活の姿を念頭に置き，そこから導き出されるべきではないか。**そうすることにより，量的に多くなりがちな指導内容が，生活という視点から精選され，将来の生活に直結し生かされるものとして確実に身に付いていくのではないか。

と考えたのである。

2　「将来の生活」から「将来の豊かな生活」へ

「将来の生活につながる」という視点を，コミュニケーション指導という一つの研究領域から教育課程編成という総合的な取り組みへ発展，拡大させる上で，次の事項を考慮する必要があると考えた。

(1) 教育目標を具現化するための教育課程の再編

本校では，「自分を最大限に発揮し，たくましく生き抜く力をもち，家庭生活や社会生活に可能な限り自立できる人間性豊かな児童生徒を育成する」という教育目標を掲げている。この教育目標を具現化するためにわたしたちに求められていることは，子供たちにいわゆる身辺自立や社会自立のための基礎・基本的な知識や技能をその子の発達段階に応じて身に付けさせていくことと同時に，**それらの知識や技能を実生活で主体的に発揮しようとする意欲や態度を培い，課題解決に向けられるようにすること**であると考えた。このことは，「家庭生活や社会生活における可能な限りの自立」を，自分でできることを増やす面での自立と同時に，本人の意志と決定による主体的な行動を大切にした自立ととらえていることを意味している。

(2) 教育改革の動向やこの教育を取り巻く情勢

特に中央教育審議会の答申や今次学習指導要領において強調されている，**「ゆとりの中で生きる力をはぐくむ」**という点については，その趣旨を教育課程編成に反映させていかなければならない。わたしたちは，上述の教育目標を具現化するために大切になる事項は，全人的な力である「生きる力」の中の，特に**「子供が自ら課題に取り組み，自らその課題を解決しようとする意欲とそのための力」**を重視して育成することと同じ方向性を示すものであるととらえている。また，障害者福祉の分野から始まったＱＯＬの考え方が学校教育に求めている，子供の生活を，生きがいや楽しみ，満足感といった質的な面から豊かにしていくことも課題になってくる。

以上述べた，教育目標の具現化や特殊教育の動向といった観点を教育課程編成に反映させようとするとき，前次研究で重視した「将来の生活につながる」という視点を，一歩拡大して取り組んでいく必要があると考えた。それは前項で明らかにした，一人一人の子供のニーズに対応して，将来の想定される実生活で大切になる様々な事項を意図的に教育内容として計画すること，と同時に，全員の子供について，**生活の中で遭遇する様々な課題や問題を解決していこうとする意欲や態度，すなわちわたしたちが大切にしたい「生きる力」の育成を図っていくこと**である。

このような意欲や態度が，将来の実生活で大切になる様々な知識や技能などにかね備わったとき，子供たちは自分の思いや願いを達成できる，いわゆる自己実現が図れる，生活がより豊かになると考えた。豊かな生活像にはある基準が存在するわけではなく，具体的にイメージするのは難しいが，例えば，自分のよさや能力を思う存分発揮できる生活，自己選択・決定のある生活，

周りの人から自分のよさを認められる生活，あるいは生きがいや趣味を持って楽しめる生活などを連想できる。これらの生活にはいずれも，自分の意志と決定で課題解決しながら主体的に行動する姿と，結果として何らかの自己実現があるのではないかと考えている。

このように，**子供たちが将来の実生活で大切になると思われる様々な力を最大限に身に付け，「自分の力でできること」を確実に増やしていくとともに，それらを主体的に発揮して課題解決し，自己実現を図りながら生活の主体者として暮らしている姿を，わたしたちは「豊かな生活」としてとらえた。**そしてこの「豊かな生活」は，今まさに一人一人の子供に必要な生活である。長期的展望に立って，今その子供に本当に大切な事柄（本研究では，このことを「個々の教育的ニーズと押さえている）を見極めながら，それにこたえられるよう指導内容・方法を改善し，現在の個々への取り組みや自己実現で満ちた生活の積み重ねを，確実に将来につなげられる教育実践がわたしたちに求められている。

Ⅲ 基本的な考え方

研究主題設定の理由で述べてきたことを踏まえ，一人一人の子供にとっての将来の豊かな生活につながる教育実践を進めるためには，以下の密接に関連し合った三つの指導の充実を図っていくことが大切であると整理した。そして，その具体的方策を教育課程編成の考え方や具体的手続きとして確立していく必要があると考えた。

個に応じた指導の充実：従来からこの教育で大切にされてきた，一人一人の子供の能力や適性等の個人差に着目し，その個人差に対応して指導を進めること，個別指導や指導の個別化の充実を図ることの意味を再度問い直し，個々の子供に視点を当て，一人一人を生かす教育の推進に当たるものである。具体的には，子供一人一人が求めている教育内容は何か，その子に本当に必要と判断される教育内容は何かを分析する指導内容の個別化と，それらの内容をその子供が確実に且つ主体的に身に付けられるような指導方法の個別化を図っていくことが求められる。そのために，全体指導計画を個々あるいは学習集団の子供の教育的ニーズを基に作成し，それを再度個々に下ろして個別に指導計画を準備するという発想が求められる。

将来の生活につながる指導の充実：前次研究での成果を踏まえ，一人一人の子供の将来の生活像を想定し，その実生活に求められる様々な能力や態度を長期的展望に立って培っていくものである。具体的には，その子供の現在の状態像や課題を基に，段階的な指導目標を設定するとともに家庭と学校が連携し合ってその目標達成のための指導実践を進め，評価を行っていくことが大切である。その際，生活に直結し生かされるという観点から指導内容の絞り込みを行い，将来の社会参加・自立のために「自分の力でできること」を確実に増やしていくことが求められる。

主体的な活動を促す指導の充実：一人一人の子供が潜在的に持っている興味・関心や意欲，様々な能力を自分の意志と決定に基づく主体的な活動として引き出し，課題解決に向けられるようにしていくことが必要である。そのためには，教師主導で学習を進めていくのでなく，個々の子供の興味・関心や今現在できることを生かして課題設定するとともに，その課題解決のための見通しを持てるようにし，子供がうまく成し遂げられるような教師のかかわり方や場の設定，教

材・教具の工夫，授業設計などの支援が大切になる。このような子供の主体的な課題解決を支える支援により，子供が満足感，成就感を味わえるようにし，それを新たな課題解決のための意欲につなげられるようにするような取り組みが大切になってくる。

Ⅳ　研究目的

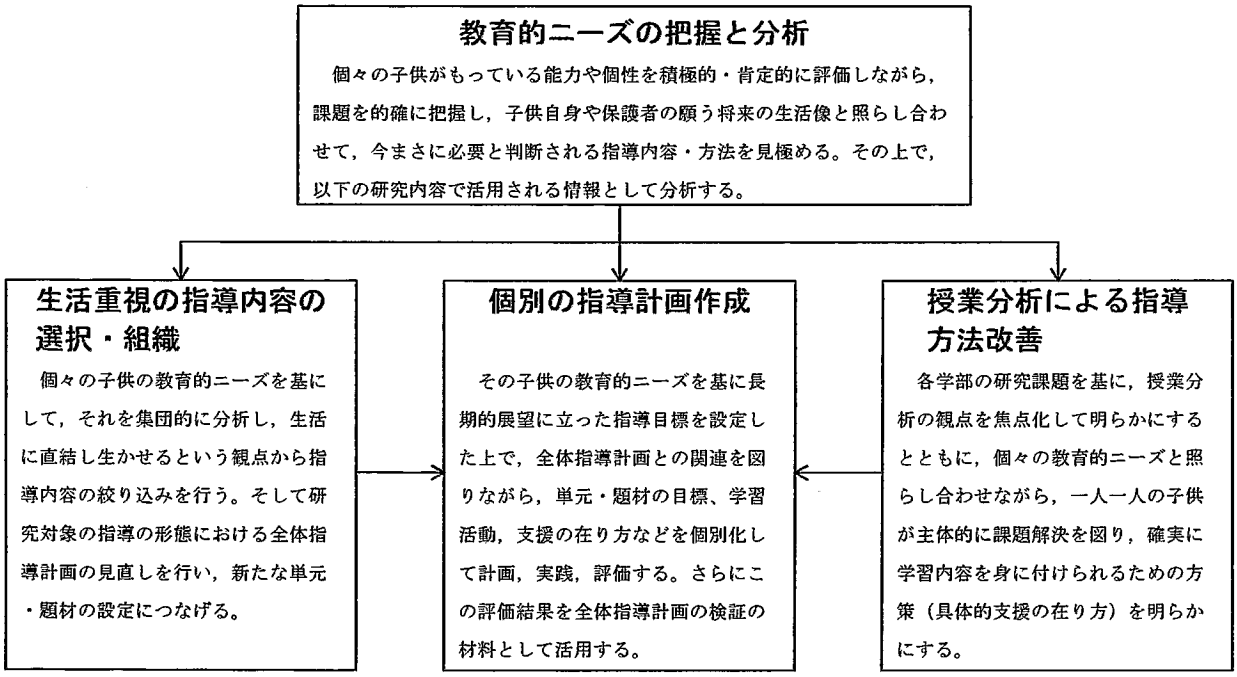
密接に関連し合った「個に応じた指導」「将来の生活につながる指導」「主体的な活動を促す指導」の充実を図る方策を実践を通して明らかにしながら，研究主題に掲げた教育課程編成の考え方や具体的手続きを探り，確立する。

Ⅴ　研究仮説

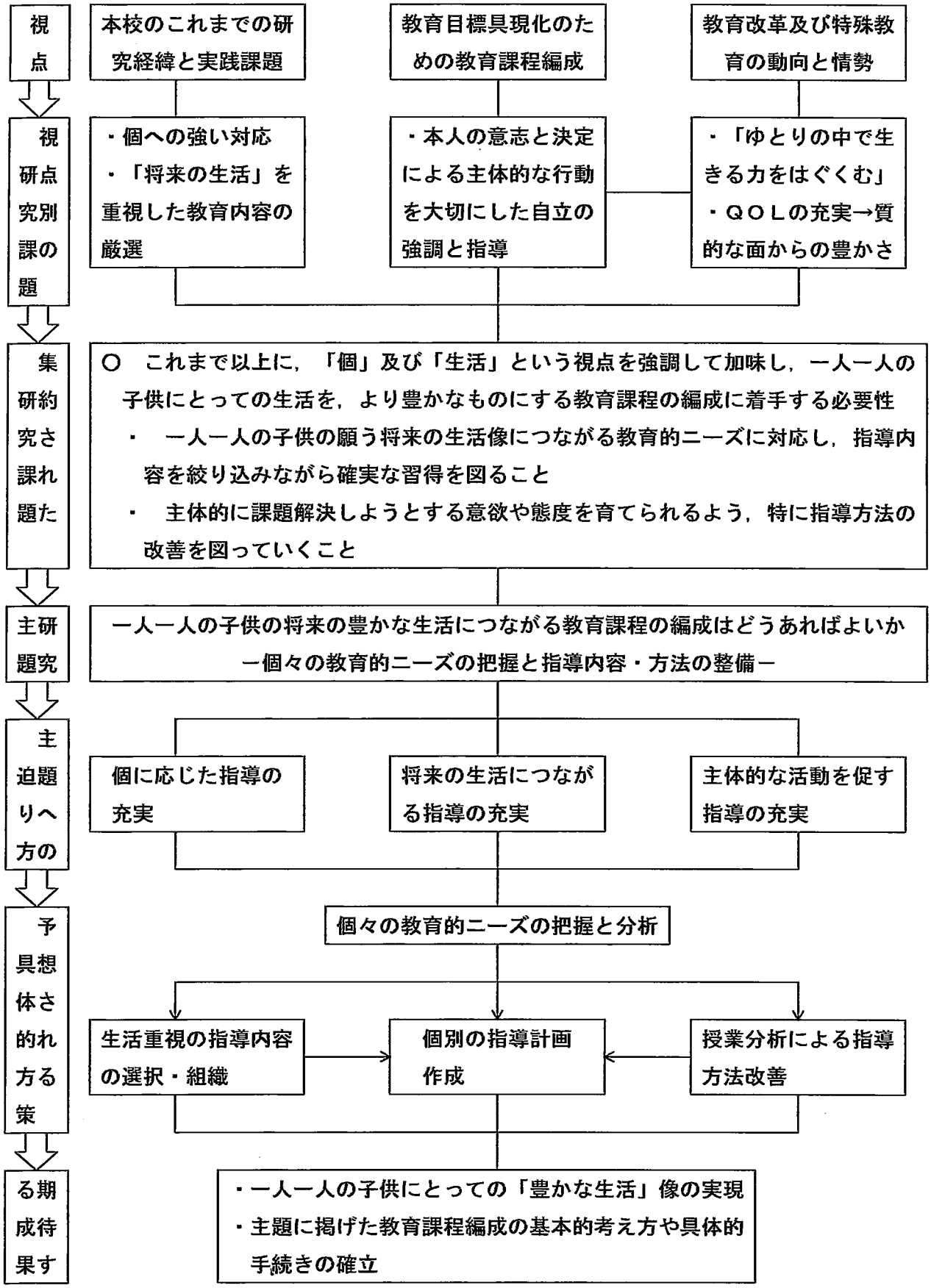
以下の取り組みにより，三つの指導の充実を関連性を持たせながら図ることができ，一人一人の子供が現在及び将来にわたる「豊かな生活」像に近づけるとともに，わたしたちが目指す教育課程編成の考え方や具体的手続きとして確立されていくのではないか。

○　一人一人の子供の願う将来の生活像につながる教育的ニーズを的確に把握・分析する。
○　そのニーズに対応させて生活に直結する内容を重視して指導内容を選択・組織し，学習集団の全体指導計画を作成する。
○　授業実践を通して，一人一人の子供が主体的に課題解決できるような支援の在り方を探る。
○　単元・題材における目標，内容，方法を個別化し，個別の指導計画として作成，実践，評価する。

Ⅵ　研究内容



研究の全体構想


視点
本校のこれまでの研究経緯と実践課題
教育目標具現化のための教育課程編成
教育改革及び特殊教育の動向と情勢
研究課題
・個への強い対応
・「将来の生活」を重視した教育内容の厳選
・本人の意志と決定による主体的な行動を大切にした自立の強調と指導
・「ゆとりの中で生きる力をはぐくむ」
・ＱＯＬの充実→質的な面からの豊かさ
研究課題の集約
○　これまで以上に，「個」及び「生活」という視点を強調して加味し，一人一人の子供にとっての生活を，より豊かなものにする教育課程の編成に着手する必要性
・　一人一人の子供の願う将来の生活像につながる教育的ニーズに対応し，指導内容を絞り込みながら確実な習得を図ること
・　主体的に課題解決しようとする意欲や態度を育てられるよう，特に指導方法の改善を図っていくこと
主題
一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいか
－個々の教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備－
主題へのアプローチ
個に応じた指導の充実
将来の生活につながる指導の充実
主体的な活動を促す指導の充実
個々の教育的ニーズの把握と分析
具体的な方策
生活重視の指導内容の選択・組織
個別の指導計画作成
授業分析による指導方法改善
期待される成果
・一人一人の子供にとっての「豊かな生活」像の実現
・主題に掲げた教育課程編成の基本的考え方や具体的手続きの確立

Ⅷ 研究方法

1 研究計画

本研究は，研究主題に掲げた教育課程編成の考え方や具体的手続きを中心的に明らかにする第１次研究（平成10～12年度）と，その成果を教育課程編成作業につなげ，教育システムの再構築を図りながら新たな指導計画を作成する第２次研究（平成13年度以降）に分けて推進するものである。

○ 第１次研究

	研究事項	具体的研究内容
平成10年度	・研究課題の明確化 ・研究主題の設定 ・初期アセスメントの実施と個別の指導目標設定	・教育目標達成のための教育課程編成，本校の研究の歩み，教官の研究のニーズ，保護者や進路先・地域社会の願い，時代の要請・特殊教育の動向の各視点からの研究課題の明確化 ・前次研究の成果を生かした教育課程の再編及び三つの指導の充実を図ることへの研究課題の焦点化 ・研究主題の基本的考え方の検討 ・前次研究での取り組みを，10の指導領域に拡大した実態や課題の把握及び長期的展望に立った段階的個別の指導目標の設定，実践，評価
平成11年度	・研究目的，仮説，内容，方法等の整理 ・教育的ニーズの把握 ・学部研究課題の明確化 ・学部研究の実践 ・個別の指導計画の考え方の検討 ・研究協議会	・研究内容の四つの柱についての基本的考え方と具体的研究手順の検討 ・個々の教育的ニーズの導き出し方の検討と把握，指導の場との関連付け　子供や保護者の意見を聞く会，個別の指導目標設定の見直し ・これまでの実践課題や「豊かな生活」の具体化による，各学部の研究対象の指導の形態および研究課題の焦点化 ・学習集団の教育的ニーズの分析とそれを基にした研究対象の指導の形態における現行指導計画の見直し　指導方法改善のポイント（特に支援の在り方）の明確化　授業実践 ・全体指導計画と個別の指導計画の関連性，基本的考え方，作成手順等の検討，整理 ・第１次研究の中間報告及び相互研修

平成12年度	・研究の成果と課題の整理 ・個別の指導計画の試案作成，実践 ・個別の指導計画の評価手順の検討 ・全体指導計画の作成 ・第10回公開研究会	・11年度までの研究における成果や課題の明確化と課題解決のための方策の検討　生活重視の指導内容の整理 ・研究対象の指導の形態における個別の指導計画の様式検討作成，実践 ・個別の指導計画の評価手続きの検討及び確立とその評価結果の分析による全体指導計画の検証 ・研究対象の指導の形態における基本的考え方，単元・題材の配列，学習活動，指導上の留意点などの再修正 ・「総合的な学習の時間」に関する基礎研究 ・第１次研究全体のまとめと報告　第２次研究へ向けての課題の明確化

○　第２次研究

	研究事項	具体的研究内容
平成13年度以降	・教育課程の基本構造の検討 ・教育システムの構築 ・年間指導計画の作成	・第１次研究の成果を基にした現行教育課程の基本構造の全体的見直しと確立 「総合的な学習の時間」の設定 新たな指導の形態の設置の試み 各指導の形態の基本的考え方，目標等の見直し ・個別の指導計画の実践における評価の考え方，精度の再検討，確立 計画→実践→評価の流れの体系化 家庭や地域，関係機関との連携の強化 ・これまでの研究のまとめとその成果を生かした，全指導の形態における年間指導計画の作成と授業実践

2　学部研究の進め方

全体研究の研究主題，基本的な考え方，研究目的，仮説，内容を受けて，学部研究では，より実践的な立場から「個々の教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備」に取り組むことにした。

その際，まず，「将来の豊かな生活につながる」という視点を，小・中・高の一貫教育の中で担うべき役割から特に大切になる事項を焦点化し課題設定した。さらに，これまでの実践課題を基に，現行の教育課程に基づく指導の形態の中から，研究対象の形態の絞り込みを行った。これは，第１次研究での各学部の研究成果を第２次研究での全体的な年間指導計画の作成に生かせるように意図したものである。

Ⅷ 研究の実際

1 教育的ニーズの把握と分析

(1) 教育的ニーズとは

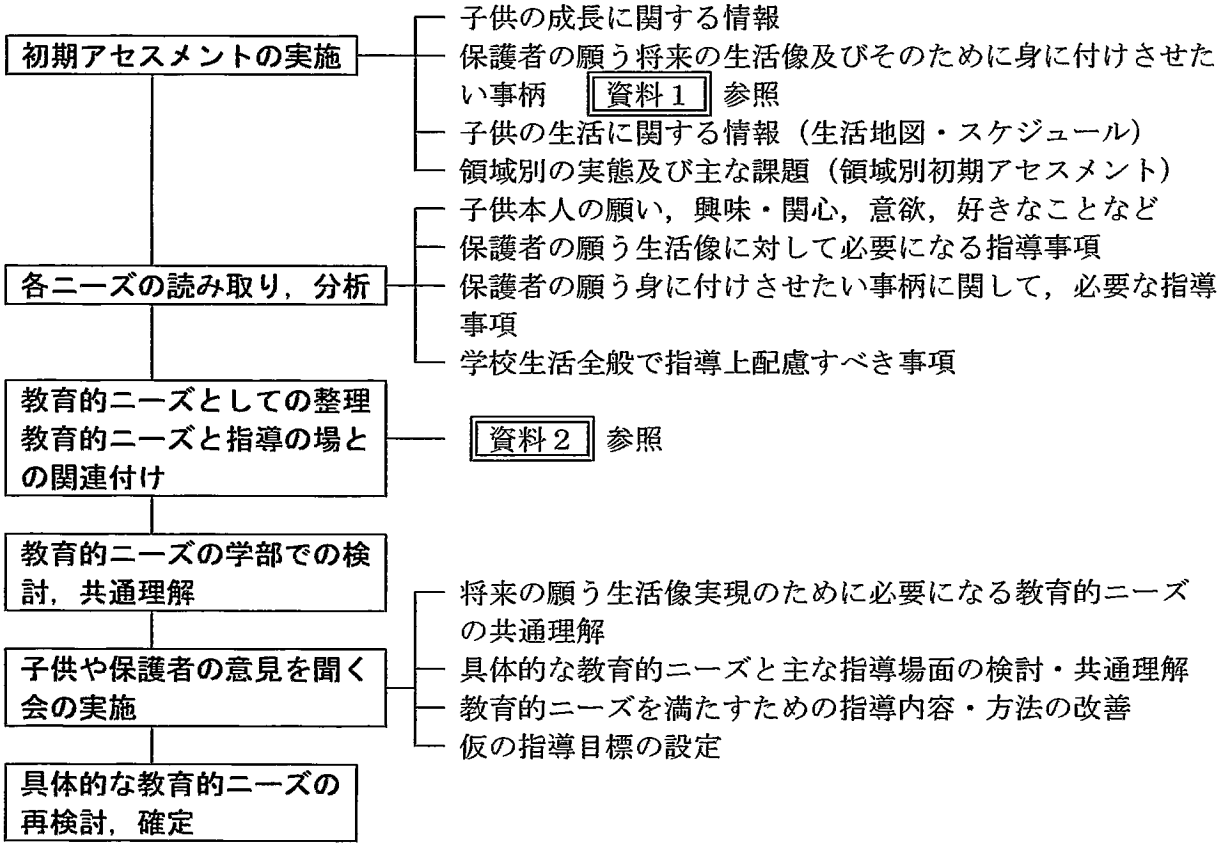
教育的ニーズのとらえ方については，障害の有無にかかわらず，その子供の教育，指導に当たってどのような条件整備が必要かといったような広義なとらえ方から，こんな力を身に付けてほしいといった具体的なとらえ方までその指し示す意味が広く，多岐にわたっている。

本研究における教育的ニーズのとらえ方については，「個に応じた指導」「将来の生活につながる指導」「主体的な活動を促す指導」の充実に向け，指導内容・方法の積極的な改善のためのベースになるものとして，以下のように整理した。

> 教育的ニーズとは，一人一人の子供の現在及び将来にわたる豊かな生活を実現するために，その子供自身が求めていることや，今あるいは将来的に本当に必要と判断される事柄（課題や指導内容・方法）で，子供本人や保護者，教師，社会のニーズ等を総合的に考察した結果として導き出されるものである。

(2) 個々の教育的ニーズの導き出し方の手順

上述の教育的ニーズのとらえ方を基に，前次研究で確立した，「子供や保護者の将来の生活への願いや考えを基盤にして連携し合いながらその子供の指導実践を進めるという理念」そして，その具体的システムである「初期アセスメントから個別の指導目標設定までの大まかな流れ」を生かし，以下のような手順及び具体的項目で一人一人の教育的ニーズを導き出していった。



(3) 初期アセスメントの実施について

一人一人の子供の実態を的確に把握するとともに，子供や保護者そして教師は，将来の願う生活像実現に向けてどのような力を身に付けてほしいというニーズを持っているのかといったことについて情報を整理し，把握した。

○　子供の成長に関する情報：標準化された検査結果に関する情報
家族に関する情報
医学的な診断，検査結果に関する情報
生育歴に関する情報
教育歴に関する情報

○　将来の願う生活像については，「家庭生活」「社会生活」「働く生活」の三つの生活から，保護者がどのような具体的生活像を希望しているのかを把握した。そしてその生活像実現のために身に付けさせたい事柄に付いては，「生活面に関して」「学習面に関して」「行動面に関して」「その他（情意面など）」の四つの視点からそれぞれの具体的内容を把握した。（具体的様式は資料１を参照）

○　領域別の実態及び主な課題

一人一人の子供の現在の状態像及び主な課題を横断的・総合的に把握することをねらいとして，「身辺処理」「身体・運動」「情緒・社会性」「生活能力」「遊び・余暇活動」「言語・数量」「コミュニケーション」「働く力」「意志」「その他」の10の領域について，記述式によるアセスメントを実施した。

その際，各項目の状態像の把握については，「○○はできない」という否定的な評価でなく，「このような支援・援助があったら，□□まではできるようになっている」といった積極的・肯定的な評価に努めた。これは，「自分の興味・関心のあることやできることを生かしたい，発揮したい」というどの子供にも共通するニーズ（思いや願い）にこたえられるよう，あるいは確実な指導の手掛かりとして活用されるよう配慮したものである。

この領域別の初期アセスメントについては，昨年度全児童生徒について実施し，本年度はその情報の中から，特に保護者のニーズの高い事項について活用していくという手法で簡素化を図った。

(4) 「子供や保護者の意見を聞く会」の実施について

前次研究で新たに設定された「子供や保護者の意見を聞く会」については，子供や保護者の将来の生活への願いや考えを聞き，それを踏まえて多面的な視点から話し合い，家庭と学校が同じ認識に立って指導を進められるようにするという基本的立場を大切にしながら，今次研究においても，大きく位置付けた。そして今次研究においては，特に以下の事項をポイントとした。

○　保護者から出された将来の願う生活像実現に向けて身に付けさせたい力の習得を図る上で，その子供の場合，特に大切になってくる事柄は何か（中心課題，関連する課題），その事柄に関してその子供はどこまでできているのか，どこから先が課題になるのか（実態），その実態を踏まえて，今後本当に大切になる指導内容・方法は何か（具体的な教育的ニーズ）を，担任教師が仮に分析した結果を基に保護者に分かりやすく説明し，意見や考えを伺う。

○　上述の分析結果を基に，特に保護者が重要視している事項について，具体的にはどのようにその教育的ニーズにこたえていけばよいかを話し合う（行動形成のための指導手続き・ステップ，授業における個別の学習活動の設定，指導方法上の配慮など）。

○　一人一人の各教育的ニーズについて，それに中心的にアプローチすることが期待できる場として，どのような学校生活の場面，どのような指導の形態，どのような単元・題材等が考えられるかを話し合う。

(5) 教育的ニーズの分析

(2)に示した手順を経て把握された個々の教育的ニーズは，以下の取り組みに活用される情報として再分析された。

○　個々の教育的ニーズの把握→個別の指導計画作成

その子供の将来の願う生活像やその生活像実現のために特に大切になってくる事柄に関する情報を基に，その子供の長期的展望に立った指導目標（学校卒業時・後の期待する姿，学部卒業目標，学年修了目標，学期目標）を設定する。さらに，その子供の指導内容・方法の改善に関する情報を，日ごろの授業設計及び実践に生かしていく。

○　個々の教育的ニーズの把握→生活重視の指導内容の選択・組織

把握した個々の教育的ニーズの特に指導内容に関する事項を，集団的に分析し，学習集団編成の在り方を検討するとともに，「その学習集団の子供たちが求めている，あるいは本当に必要と判断されるもの」という視点から，実生活に直結し生かせる内容を重視して選択・組織し，その学習集団の全体指導計画を作成する。

○　個々の教育的ニーズの把握→授業分析による指導方法改善

把握した個々の教育的ニーズの特に指導方法の改善に関する事項から，これまで以上に個に強く対応するために，日ごろの授業実践においてわたしたちが特に配慮すべき事項（指導方法改善のポイント）を明らかにする。

2　生活重視の指導内容の選択・組織

(1)　生活重視の指導内容とは

把握した個々の教育的ニーズの指導内容に関する事項を集団的に分析した結果を基に，実生活に直結し生かせるという視点から整理したものであり，子供たちの主体的な学習により，確実に身に付けていくことが期待される内容である。それらの指導内容は，その学習集団の実態や特性等を考慮しながら，学習活動・内容として全体指導計画に位置付けられるとともに，個別の指導計画において個々の教育的ニーズに対応させながら個別の学習活動・内容として具体化されることになる。

この生活重視の指導内容は，発達の系統と生活の体系という二つの観点から融合化がなされ，(2)に示すような類型及び図２に示すような階層の関係になると考えた。ここでいう生活の体系とは，生活年齢や生活圏の拡大，ＱＯＬの充実といった視点を大切にし，将来の社会生活や職業生活への移行をスムーズにするよう意図した観点である。

(2)　生活重視の指導内容の類型

	生活の基盤になる内容	生活の道具として使える内容	生活を拡充させる内容
基本的な考え方	その子供が一人の人間としていろいろな集団の中で生きていく，生活していく際に，しっかりと身に付けさせたい内容で，次の生活の道具として使える内容，生活を拡充させる内容に発展していくためのいわゆる基礎的・基本的な内容。発達の系統に基づく積み上げ的な指導が求められる。	発達の系統が強調される生活の基盤になる内容を基に生活の体系（生活年齢，生活圏の拡大，QOLの充実等）という視点が付加されて，獲得した力を実生活の中で実際的，実用的に発揮できることをねらう内容。実生活の中での課題解決力の育成ということがさらに強調される。	生活の基盤になる内容や生活の道具として使える内容を身に付けて培った知識や技能を，固定的な場面でなく，実生活の中の様々な場面や人を対象として，応用・発展できることをねらう内容で，子供が自分で生活をつくり，切り開き，充実させていくことを大切にした内容である。
教育的ニーズの分析から想定される具体的な内容の上位項目	・ＡＤＬの獲得 ・健康な体つくり ・生活リズムの獲得 ・言葉や数の概念の基礎になる認知発達 ・コミュニケーション手段の獲得 ・社会性の発達を図るもの（物や人とのかかわり） これらの内容は，知識や技能として行動表出されることをねらうだけでなく，生活そのものへの意欲（生活の素材や経験への興味・関心，人とのかかわりの意欲など）を育てるという視点からも準備される必要がある。	・ＡＤＬの確実な獲得と生活の中での発揮 ・金銭処理や買い物 ・暦や時刻に合わせた行動調節 ・電話，伝言，報告，手紙 ・交通機関の利用 ・趣味や余暇活動につながる技能の獲得 実生活において生かせる力の獲得という観点から，家庭生活や社会生活における生活技能や知識の習得が重要視される。	・衣服や食事の調整，管理 ・健康管理 ・対象や状況に応じたかかわり方，礼儀，マナー ・公共の施設の利用 ・金銭の管理，貯金 ・新聞，雑誌の利用 ・調理，電化製品の活用 ・働く生活につながる知識・技能の獲得 生活の道具として使える内容を生活の様々な場面に拡大したもので，生活する上で遭遇する課題をより実際的に処理できるような内容が含まれる。 QOLの充実という点から，趣味や余暇の活用なども含まれる。

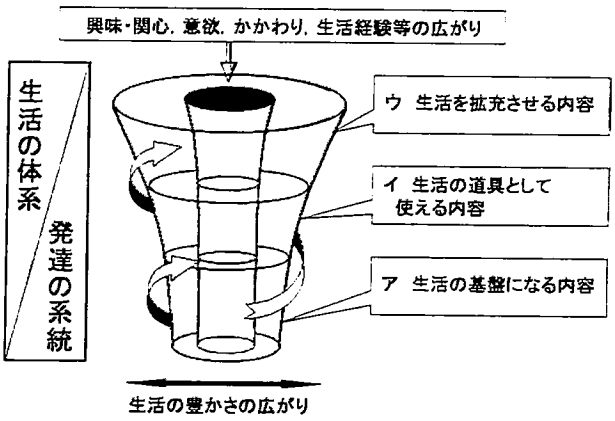
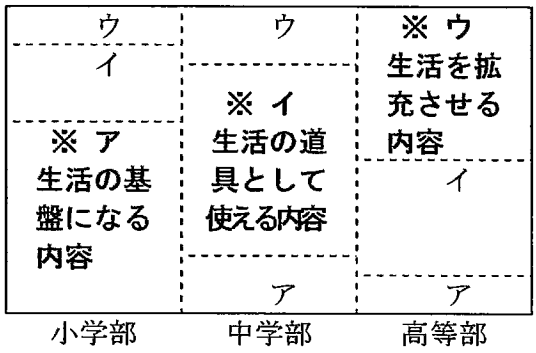


図２　生活重視の内容の三つの階層



※印部分は，各学部で中心的に選択することが期待される内容をそれぞれ示す。

図３　各学部の生活重視の内容の選択の割合

(3) 現行全体指導計画の見直し，改善

上記 (2)の各階層における内容の上位項目は，現段階では仮説的なものであり，今後教育的ニーズの集団的な分析結果からより具体化され，教育課程全体の中で各指導の形態に振り分けられることになる。今次研究では，「関連する指導の場」から集約された個々の教育的ニーズを基に，まず，各学部で研究対象に取り上げる指導の形態について，特に大切になる指導内容の絞り込みを行うとともに，学習集団編成の在り方についても検討した。

そして，現行全体指導計画における各単元・題材の意義・価値やねらいの中で，それらの指導内容を新たな学習活動・内容として組み入れていくことが可能かどうか，それが困難な場合，教育的ニーズにより積極的にこたえられるよう，絞り込まれた指導内容をどのような単元・題材で，どのような学習活動・内容の構成として計画すればよいのかを検討した。

3 授業分析による指導方法改善

(1) 指導方法改善の意図

前項で述べた生活重視の指導内容を，一人一人の子供が主体的に且つ確実に学習し身に付けていくためには，これらの指導内容が子供にとって魅力ある学習活動として単元化・題材化されることと同時に，毎時間の授業を個々の教育的ニーズを基にして，個への対応をこれまで以上に徹底し，子供一人一人が持っている能力や個性を主体的に発揮しながら課題解決できるような支援の在り方を探っていく必要がある。

授業分析による指導方法改善とは，このようなねらいに基づき，まずは日々の授業実践をある焦点化された観点から分析し，特に指導方法の改善に関するポイント（どのような支援の在り方が望まれるのか）を明らかにするとともに，そのポイントを個々の子供に具体化していこうとするものである。

(2) 指導方法改善の具体策

ア 授業分析の観点の焦点化

わたしたちは常に，自分の授業を改善したい，もっと子供たちの教育的ニーズにこたえられる授業を展開したいと願っている。しかし，授業改善を図る際の出発点になる授業分析の観点そのものが数多く存在し，自分たちの中で絞り込めていないのも現状である。

そこで本研究では，まず，この授業分析の観点を「個に応じた授業づくり」「主体的な活動を引き出す授業づくり」の二つの大きな柱に絞り込むことにした。この二つの柱を強調した場合に，特に大切にしたい授業分析の観点の例として以下の事項が考えられる。

○ 学習活動の個別化を図り，個が満足できる授業設計の工夫がなされていたか。

○ 主体的に活動し課題解決できるような教師のかかわり方や教材・教具の準備，場の構成などがなされていたか。

○ 個別化を図るだけでなく，同時に集団化を図れる工夫がなされていたか。

これらの観点を基に，各学部では，研究対象の指導の形態においてその研究課題から特に何が大切になるのかを焦点化・具体化していくことにした。

イ　具体的指導方法改善の方策を明らかにする。

各学部では，焦点化・具体化された観点を基に，ふだんの授業実践をＶＴＲ等を用いて分析し，指導方法改善のポイントを明らかにしながら，特に一人一人の子供が主体的に学習活動に取り組める具体的支援の在り方を個々の教育的ニーズの指導方法に関することを基に探ることにした。

4　個別の指導計画作成

(1)　個別の指導計画の基本的な考え方

各地で個別の指導計画が作成され，それに基づく実践が進められているが，個別の指導計画には様々なタイプやレベルがあると言われており，考え方が整理し切れていないのも現実である。本研究では，教育課程編成という取り組みの中に個別の指導計画作成を位置づけながら，その基本的な考え方をまず整理したいと考えた。

その際，参考にしたのが，前次研究でも重視したＩＥＰ（個別教育計画）の理念である。すなわち，個別のニーズを明らかにし，それを出発点にして家庭と連携しながら個別の長期的・短期的指導目標を設定すること，そして個別指導を重視し確実にその目標達成を図っていくという個への強い対応の部分である。ここに「個別指導の全体計画」的な発想がまず求められる。

次に考えたのが，教育課程との整合性である。ここでは，生活単元学習や作業学習といった教育課程に基づく指導の形態の集団指導の中で，個々の指導目標達成をどのように図っていくかを明確にすることが求められる。全体指導計画に設定された各単元や題材が，その指導目標達成のためにどのように具現化されるのかを明確にしていくわけである。

上述のことや他の研究内容との関連性を踏まえ，本研究では個別の指導計画の基本的な考え方を以下のように整理した。

「個に応じた指導」「将来の生活につながる指導」「主体的な活動を促す指導」という密接に関連し合った三つの指導の充実を図る方策として，教育的ニーズの把握と分析，生活重視の指導内容の選択・組織，授業分析による指導方法改善の各研究成果が最終的に個々のレベルに下ろされ，具体化・集約化された指導計画が，本校で考える個別の指導計画である。

それは，一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育的ニーズから導き出された指導目標を達成するために，指導内容・方法を個別化し，個別指導と集団における指導の個別化の二つの側面から，総合的に計画しようとするものであり，その実践における評価の結果が，個々の指導内容・方法の改善だけでなく，全体の教育課程特に全体指導計画の見直し，改善につながっていくものである。

(2)　個別の指導計画と全体指導計画

前項でも触れたように，個別の指導計画の基本的考え方を整理するに当たり，全体指導計画（その子供が所属する学習集団の単元・題材ごとの集団的な指導計画）との関連性を明確にする必要があると考えた。本研究では，両者の関係を，個から集団へ（個別の指導計画から全体指導計画へ）という方向性と，集団から個へ（全体指導計画から個別の指導計画へ）という方

向性の二つの側面から，図３に示すような関係図でとらえた。

この関係図からも分かるように，全体指導計画と個別の指導計画は，相互通行の関係にあり，どちらか一方ではなく，両者を充実させることで初めて授業実践に役立つものになると考えている。

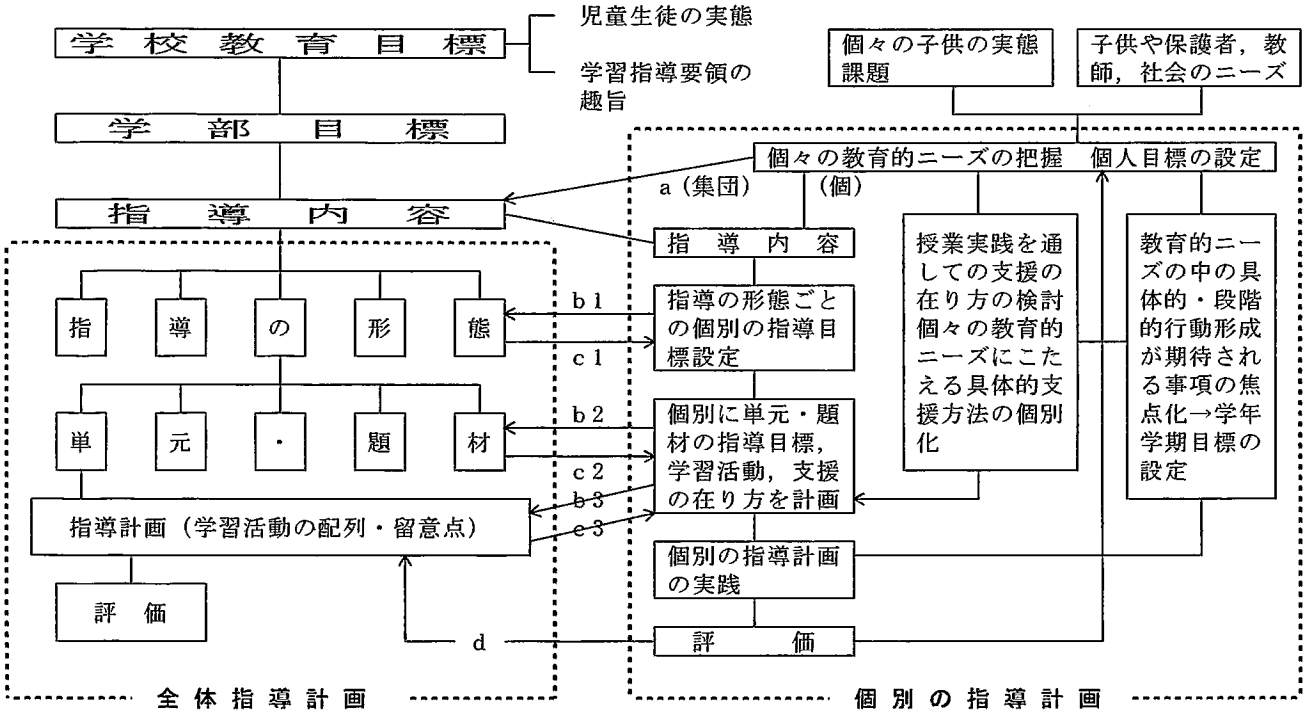


図３　全体指導計画と個別の指導計画の関係

○　個から集団への方向性

矢印a	本研究では，教育課程そのものを将来の豊かな生活につながるものにするために，個別に把握した教育的ニーズを集団的に分析し，指導内容を選択する際に，「子供自身が求めているもの，本当に必要と判断されるもの」という観点を強調している。したがって，全体指導計画を作成する際にも，個々の教育的ニーズが出発点になることが重要になる。
矢印b1	同様に矢印ｂ１は，その子供の全体的な指導目標（本研究の場合，卒業時・後の期待する姿，学部卒業目標）を達成するために，現行教育課程に基づく各指導の形態において特に大切になる事項をその指導の形態の個別の指導目標として設定し，それを現行の各指導の形態の考え方や目標の見直しにつなげることを意味している。
矢印b2 b3	ここでは，個別に設定された各指導の形態の指導目標を達成するのに必要になる学習活動を，どの単元・題材で中心的に扱っていくのかを考慮しながら，集団的な単元・題材の目標の検討及び配列を行う。さらに，ある単元・題材において，どのような学習活動の配列や授業形態，教材・教具を準備すれば個別の指導目標達成につながるかを集約して吟味することになる。
矢印d	実践後の個別の指導計画の評価結果は，その子供の指導内容・方法の改善とともに個から集団へという方向性の総括として，全体指導計画の見直し，改善につながっていく。

○ **集団から個への方向性**

矢印c1 c2 c3	集団から個への方向性としては，見直された指導の形態ごとの指導目標，あるいは単元・題材における指導目標を個別化し，教育的ニーズやその子供の全体的な指導目標を受けて，その指導の形態や特定の単元・題材で特に何が大切になるのかを，再度明確にしていく必要がある。さらに，単元・題材の全体指導計画に設定された学習活動や指導上の留意点（支援の在り方）は，その子供の場合，どのように具体化・焦点化されるのかを計画していくことになる。

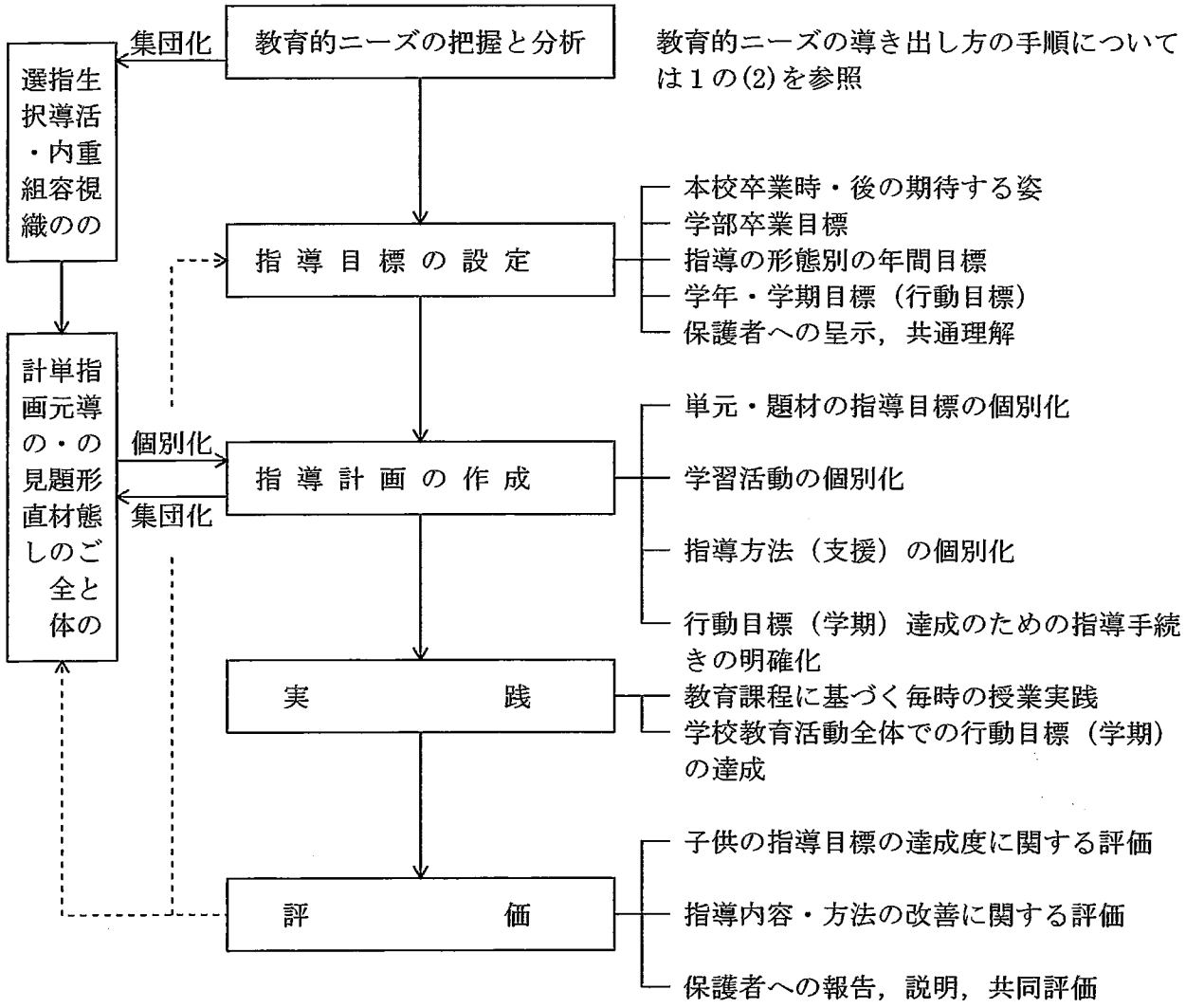
(3) 個別の指導計画の作成に当たっての留意点

○ 子供自身や保護者のニーズを反映させ，家庭と学校が連携し合って指導計画を作成する。（インフォームド・コンセント＝説明と合意，アカウンタビリティ＝説明責任　の理念の学校教育への導入）

○ 全体指導計画との相互通行性を大切にしながら，授業実践に役立つ情報として整理する。

○ 計画→実践→評価の流れの効率化及びフィードバック機能の充実を図りつつ，個々の指導内容・方法の改善につながっていけるようにする。

(4) 個別の指導計画の作成手順，内容



5　各学部の実践研究

「Ⅷ 研究方法」の「2 学部研究の進め方」でも述べたように，今次研究においては，「将来の豊かな生活につながる」というテーマを各学部で具体化・焦点化した上で，全校的な立場から研究対象の指導の形態を三つに絞り込み，より実践的な立場から研究を進めることにした。

各学部の研究の視点及び研究対象の指導の形態は，以下のとおりである。

	小　学　部	中　学　部	高　等　部
「将来の豊かな生活につながる」というテーマの具体化・焦点化された視点	「やりたい，もっとやってみよう」という目的意識・課題意識を持てるようにすること	身に付けたことを生活に生かすことができるようにすること	自分のよさやできることを生かすことができるようにすること
研究対象の指導の形態	生活単元学習	教科別の指導	作業学習

各学部の実践研究を進めていくに当たっては，研究内容の中の「教育的ニーズの把握と分析」「生活重視の指導内容の選択・組織」「授業分析による指導方法改善」の各事項を中心的に取り上げ，上述の各学部で具体化・焦点化された視点（学部研究主題）の中で，それらがどのように具体化されていくのかを授業実践を通して探っていった。

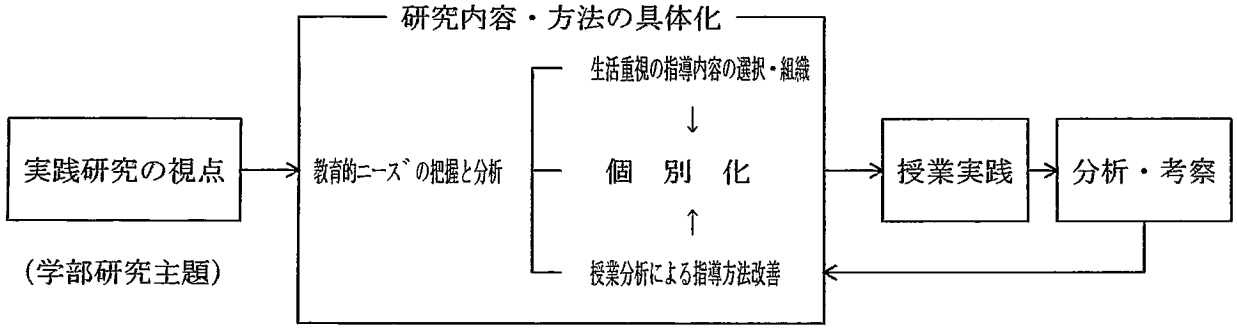


図4　学部の実践研究の進め方の手順・構造

各学部の実践研究の大まかな研究内容は以下のとおりである。

小学部：教育的ニーズにこたえられる生活単元学習の取り組みを，「やりたい，もっとやってみよう」という目的意識・課題意識の部分に着目して，内容の精選や一人一人に応じた支援の在り方を探った。

中学部：一人一人が生活に生かすことができるために必要な題材を，教育的ニーズを基に精選し，生徒が主体的（見通しを持ち，自分で考えたり，気付いたりする）に活動できるような支援の在り方を，授業実践を通して探った。

高等部：生徒一人一人の卒業後の生活や社会的要請を受け止めた上で教育的ニーズを導き出し，作業学習の指導内容を整理するとともに，生徒が自分のよさやできることを発揮できるために大切になる要素，支援の在り方を探った。

Ⅸ 研究のまとめ

わたしたちは，平成10年度から，一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育的ニーズを把握し，指導内容・方法の整備を進めながら教育課程を再編する研究に取り組んできた。３年計画の２年次に当たる本年度までの取り組みでは，その背景にあるこれまでの実践課題や研究内容の基本的な考え方を整理することを中心に研究を進めた。したがって，子供の具体的変容といった実質的な研究成果を十分に上げたとは言い難い面もあるが，最後に今次研究の本年度までの取り組みについて，研究内容ごとにその成果及び課題を整理してみたい。

○ 教育的ニーズの把握と分析

【成果】・ 保護者とともに，個々の教育的ニーズを明らかにし具体化する取り組みを通して，より横断的・総合的な視点から，その子供の課題や大切になる指導内容・方法を焦点化できたとともに，日ごろの授業実践の中でそれらにこたえていこうとする態勢が確立されつつある。

・ 三つの密接に関連し合う指導の充実を図る際の基盤になる方策として，あるいは，わたしたちが目指す教育課程編成の具体的手続きとして，個々の教育的ニーズの把握と分析の取り組みを強く位置付けることができた。

【課題】・ 子供本人，保護者，教師，社会の各ニーズの観点を再度整理し，その分析の精度を上げることで，より一層，「子供自身が求めていること，その子供に本当に必要と判断されること」に近づけていく努力が求められる。特に，社会的要請(社会のニーズ)については，体系的な洗い出しを行い，その生かし方を明確にする必要がある。

・ 教育的ニーズに含まれる情報を以下の研究内容により生かせるように，分析方法の簡略化や整理の仕方について工夫していく必要がある。

○ 生活重視の指導内容の選択・組織

【成果】・ 把握した教育的ニーズの分析結果を基に，「生活に直結し生かせる」という視点から指導内容を絞り込んだことにより，研究対象の指導の形態において本当に大切になる学習活動を焦点化し，現行指導計画の学習活動の見直しにつなげられたとともに，学習集団編成の在り方についても検討できた。

・ 量的に多くなりがちだった指導内容が整理されたことにより，子供たちがゆとりの中でじっくりと学習活動に取り組めるようになったとともに，学校での学習成果が，家庭や社会の中での確実な生活力として発揮されつつある。

【課題】・ 集約された個々や学習集団の教育的ニーズを総合的に分析し，研究対象の指導の形態だけでなく，教育課程全体の中で指導内容を具体化していく必要がある。その際，仮説的に設定している三つの階層についても，そのつながりや関連性を明確にし，小・中・高の一貫性という視点から整理していくことが求められる。

○ 授業分析による指導方法改善

【成果】・ 数多く存在する授業分析あるいは指導方法改善の観点を，学部の研究課題から焦点

化したことで，授業実践を進める際の支援のポイントを明確にできつつある。同時に，従来の教師主導になりがちな授業からの脱却を図り，子供主体の学習活動を進めていくための基盤づくりがなされ，授業設計や具体的な働き掛けにおいて，強く個に目を向けられるようになった。

【課題】・　授業実践とＶＴＲ等による分析の積み重ねにより，より実践的な立場から，具体的支援の在り方を明確にしていく必要がある。さらに，そこで得られた情報を，個々の教育的ニーズに基づいて，「Ａ君の場合は？，Ｂさんの場合は？」というように，個別的に具体化して，計画，実践していくことが求められる。

○　個別の指導計画作成

【成果】・　個別の指導計画の考え方や作成手順を明らかにし，その成果を学習指導案作成において，「教育的ニーズにこたえる」「個別に指導目標，学習活動，支援の手だてを設定する」ということに反映できた。

・　全体指導計画と個別の指導計画の関連性について本校なりの考え方を整理したことで，これまでの集団から個への方向性が主だった学習指導を，個から集団への方向性の中でも吟味し，単元・題材の意義・価値やねらいの検討がなされるようになった。

【課題】・　まず，本年度までに取り組めなかった個別の指導計画の試案を作成し，その試案を実践・評価しながら様式を確立する必要がある。その上で，これまでの研究成果を日ごろの授業実践に役立つ情報として個別化し，見直された単元や題材における個別の指導計画として作成していくことが求められる。

・　個別の指導計画の評価方法を検討し，その結果をその子供の指導内容・方法のさらなる改善につなげるだけでなく，全体指導計画の評価・検証にも役立てるというシステムを確立しなければならない。

参　考　文　献

鹿児島大学教育学部附属養護学校(1994)：研究紀要第９集　「かかわり合いの豊かな子供を育てる教育課程の編成」－学部研究編－　－指導計画編－

鹿児島大学教育学部附属養護学校(1998)：研究紀要第11集　「一人一人の子供の将来の生活につながるコミュニケーション指導の取り組み」

太田俊己(1997)：「個に応じた指導」の今日的動向と課題　発達障害研究　第19巻　第２号　日本発達障害学会

岩手大学教育学部附属養護学校(1996)：研究紀要第14集　「一人一人の教育的ニーズをふまえた指導計画の作成」

財団法人安田生命社会事業団(1995)：個別教育計画の理念と実践　－ＩＥＰ長期調査研究報告書－

東京都教育庁(1997)：障害のある児童・生徒のための個別指導計画Ｑ＆Ａ　株式会社文久堂

文部省(1999)：盲学校，聾学校及び養護学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　高等部学習指導要領

資料１

子供の将来の生活の希望と今後の願い・要望

中・中・高（2）年　（○○　○○）
平成11年６月30日　記入者（△△△）

1　子供に将来どのような生活をしてほしいですか。

○　家庭生活に関して　・　自分の好きなことを趣味や生きがいとして生活の中で充実させ，積極的に社会とかかわりを持てるようになってほしい。

○　社会生活に関して　・　気の合う友人二～三人とグループホームを持てたらよいと思う。家族は距離を置いて支援し続ける立場でありたい。

○　働く生活に関して　・　自分が興味を持ち，かつ自信を持ってできる仕事を見付け，健常者の中で一緒に過ごせる場で働いてほしい。

2　めざす将来の生活が実現できるよう，子供に今後どのようなことを身に付けさせたいですか。付けてほしいですか。

	できるだけ早く（１年以内をめどに）子供に学習させたり，育てたり，改善したりしてほしい事柄	今すぐは無理でも，将来的・長期的に子供が学習したり，育っていったり，改善していったりしてほしい事柄
○　生活面に関して 身辺処理，健康，家事，遊び・余暇活動，家庭外での生活技能など	・　調理に興味を持ち，炊飯や味噌汁といった簡単な食事が作れるようになってほしい。 ・　身だしなみについて意識を高め，鏡を見て身なりを整えたり，清潔さを保ったりできるようになってほしい。	・　自立に向けて，自分の身の回りのことは，自分でできるようになってほしい。
○　学習面に関して 教科の学習，仕事，作業，コミュニケーション，物への興味・関心など	・　仕事中（学習中）と休み時間を区別して，場に応じた言葉遣いができるようになってほしい。 ・　簡単なお金の計算や手紙の書き方等を学習して，生活する上での基本的な生活知識を理解できるようになってほしい。 ・　一人で簡単な買い物ができるようになること（お手伝い活動の経験を含む）。 ・　積極的に作業に取り組む態度を育てたい。	・　お金の計算ができるようになり，生活上必要な身近な物をできるだけ自分の力でできるようになってほしい。 ・　社会生活経験の拡大を通して，地域の一員としての自信を持たせてやりたい。 ・「働く」ことに対する意欲が高まってほしい（積極性，集中度）。
○　行動面に関して 情緒の安定，対人関係，運動，集団参加，こまっている行動など	・　人の話をしっかり聞けるようになってほしい。	・　話の合う友達と一緒に休日を過ごしたり，やり取りを楽しんだりすることができるようになってほしい。
○　その他，情意面など 興味・関心，意欲，自信責任感などの内面の育ちに関して		・　思いやりの心が育ってほしい。例えばバスの中で身体の不自由な人に席を譲ったり，弱い人に力を貸してあげたりすることが，進んでできるようになってほしい。

3　ふだんの学習活動に関して，もっとこういったことを指導してほしい（指導内容），授業の中でこういったことを配慮してほしい（指導方法）というようなことはありませんか。

・　本児の興味・関心のある学習活動を通して，「働く」ことに対し，より意欲が持てるように育ててほしい。
・　体力が付いてきているので，体調に合わせて力仕事に取り組ませてほしい。
・　日ごろ余暇として，一人または家庭教師の学生と一緒に町に出て買い物する機会が多い。自分が欲しい物，生活の中で自分が必要とする物等を実際に買うことで，金銭の取り扱いが少しでも身に付いてくれれば。

4　現在，子供に見られつつあるあるいは持っている興味・関心や能力，態度，性格等で，子供のよさとして今後も時間を掛けてじっくりと育てていきたい，伸ばしていきたい事柄はありませんか。

・　家庭で園芸作業を好み，お手伝い活動として意欲的に取り組んでいる。農耕や園芸作業を通して，収穫する喜びや働く喜びを感じとることができるようになってほしい。
・　余暇の楽しみとして，自転車で出掛けることに対する興味が深まってきている。

5　めざす将来の生活に向けて，進路に関することや養育に関することなど知りたい情報はありませんか。

・　現在，中学時代の保護者仲間で将来の「働く場」つくりを考えている。制度のことや金銭的なことなど，具体的な知識，情報が不足しているため，今後方向性を検討していきたい。

資料2

教育的ニーズの分析 （様式）

高等部　　2年　（○○　○○）

1　将来の願う生活像に向けて，身に付けさせたい事柄に関して

子供自身や保護者のニーズ（教師の願いを含む）	ニーズに関する中心的課題，関連する課題（指導内容を含む）	実　態（指導上手掛かりになることや支援の手だてを含む）	具体的な教育的ニーズ（指導方法に関することを含む）	指導の場
◎　炊飯や味噌汁といった簡単な食事が作れるようになってほしい。	◎　調理経験の拡大 ○　自分一人の力でできることを増やすこと	・　これまで電子レンジを使った調理の経験はあるものの，包丁など道具を使った経験は乏しい。しかし，家庭でのお手伝い活動を通して，調理に対して興味を示すようになってきている。将来の自立した生活を想像させながら，実際の調理経験を増やすことで自信が持てるようにしたい。 ・　自分でやってみようという好奇心はあるものの，経験不足からくる自信のなさ，不安等が影響してしまい，実際の行動に移せないことが多い。本児の興味・関心を示す事柄（自転車）からできることを増やし，経験の拡大を図るとともに，物事に対し意欲的に取り組む態度を育てたい。	・　調理経験を通して，自分で作ることができる簡単な料理の作り方を覚えること（1～2品）。 ・　学校や家庭で自転車に乗る経験を増やし，休日などに自転車を利用して遊びに行くことができるようになること。	・コース別学習 家庭生活 ・休み時間 クラブ活動
◎　身だしなみについて意識を高めてほしい。	◎　身なりや清潔に対する意識の高揚 ○　衣服の丁寧な取り扱いの習慣化	・　服装の乱れに対して意識が持てるようになったものの整髪や洗顔，ひげそりといった全体的な身だしなみに対する意識は十分に高まっていない。清潔さを保つことなど社会生活を送る上での基本的な生活態度を理解した上で，身だしなみに対する意識の高揚を図る必要がある。 ・　学校でロッカーに衣服をしまう際，急いでいるときや考えごとをしているときなど，しっかり畳まずそのままロッカー内に放り込むことがある。自分で整理整とんしたかどうかを振り返らせ，きちんと畳んだ後に自分でチェックできるようにすることで，整理整とんに対する意識を高めたい。	・　起床時や更衣後など自然に鏡を見る態度を身に付けること ・　洗顔石けんやひげそりの使用経験の拡大 ・　更衣後に，自分で脱いだ衣服を畳んだり掛けたりしたかどうかをチェックし，整理整とんに対する意識を高めること。	・学校生活全般（更衣） 家庭生活 ＬＨＲ （性の指導）
○　友達ができて，休日一緒に過ごせるような関係になってほしい。	◎　余暇活動の経験拡大と充実 ○　仲のよい友人関係の深化	・　休日に公共の交通機関を使って自分の行きたい場所に行くことができている。バスの利用が中心であるが，ＪＲで遠出することに対しても興味を示している。最近，写真撮影や風景スケッチの興味も深まっている。 ・　休み時間は，友達より教師とのかかわりが多い。自分から友達に話し掛けることはあるが会話が続かず，その場から離れてしまうことが多いため，共通の興味・関心を持った生徒とかかわる機会を増やしたい。	・　写真撮影や風景スケッチを趣味につなげること。 ・　共通の話題を持った友達とかかわる機会を増やすことを通して，友達とかかわろうとする意識を高めること。	・家庭生活（余暇） 美　術 ・休み時間
☆　卒業後の意識を高め，意欲的に働く態度が育ってほしい。	◎　集中して作業に取り組む態度の育成 ◎　長時間の労働に耐えられる体力の育成	・　興味を示す作業であれば意欲的に作業に取り組むことができるが，作業の手順を理解するまでに時間が掛かり，見通しが持てないと手を休めたりぼんやりとしてしまったりすることがある。作業に見通しを持たせるとともに意欲を喚起することができるような支援をすることで集中力も高めていきたい。 ・　作業に取り組む上で，自分の体調を考えたり，周囲のペースに合わせたりすることの意識が不十分であるため，作業後半や午後の作業では集中力が薄れ，行動も遅くなりやすい。	・　作業意欲を喚起し，見通しを持たせた上で，一定時間集中して取り組む態度を育てること。 ・　長時間労働の経験の拡大とともに，体調に合わせて，一定のペースで作業に取り組むこと。	・作業学習 ・作業学習

◎緊急度の高い保護者のニーズ　◎中心的課題（指導内容）
○将来的な保護者のニーズ　○関連する課題
☆教師の願い

2　指導内容・方法の改善のポイントに関して

・　保護者からは，本児の興味・関心を生かした学習活動が要望として挙がっていることから，興味・関心を大切にしながら学習意欲を喚起できることを心掛けるとともに，導入段階で視覚的情報を提示するなどして十分に見通しが持てるようにする必要があると思われる。また役割意識を持てるようにすることで，責任感や最後までやり遂げる必然性を意識させ，集中力を高めることにつなげていきたい。
・　体調や気分に応じて行動意欲が変化する傾向があることから，健康観察に十分留意するとともに，本児の体調に合わせた学習課題の設定を心掛ける必要があると思われる。

3　その子供のよさや興味・関心のある活動に関して

・　日ごろの余暇の過ごし方で社会との接点が多いため，実際の社会生活と結び付けた校外学習の経験を増やすことで学習意欲も喚起されると思われる。
・　緻密な作業よりも粗大運動が伴う活動を好むため，力仕事などをお手伝いとして設定して積極性を育てることが望ましいが，微細運動の経験も増やし意欲的に取り組む作業種を広げることも大切にしたい。